

# 平成24年度 事務事業評価シート

※平成23年度に実施した事業を評価しています

事務事業名称	美術館展示事業						継続
コード	28	-	23	-	01	-	00
担当部署	文化スポーツ部	美術館				予算事業名	美術館運営管理
						予算事業コード	会計 02 款 01 項 18 目 01

## 1. 事業の位置付けと関連計画等

第三次川越市総合計画後期基本計画における位置付け			位置付けなしの場合	法令による実施義務		義務ではない
基本目標(章)	2章	学びと交流を深め、豊かな心と文化をはぐくむまち		根拠となる法令、条例等	地方自治法、文化芸術振興基本法、川越市立美術館条例	
方向性(節)	3節	歴史文化の継承と新しい市民文化の創造				
施策	1	芸術文化活動の充実		個別計画等の名称	なし	
細施策	3	芸術文化鑑賞機会の充実				

## 2. 事業の目的と概要

事業の目的 (誰・何を対象に、何のために実施するのか)	来館者を対象に、優れた作品等を身近な場所で鑑賞することにより、美術への理解を促すとともに市民文化の振興及び向上に寄与する。						
事業の概要 (活動内容、実施手段・方法など)	美術品の収集、調査・研究並びに展覧会の企画・構成を職員(学芸員)が行う。						

## 3. 実施にかかるコストと実績

(単位:千円)

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
予算額		78,108	81,949	72,731	78,223	74,271	
事業費	A	76,714	77,512	69,408	73,324	74,271	72,000
	B	28,368	27,822	19,828	23,902	24,420	24,420
総コスト(C=A+B)		105,082	105,334	89,236	97,226	98,691	96,420
正規職員(1年間の従事人数)		3.80人	3.70人	2.58人	3.22人	3.30人	3.30人
臨時職員(1年間の従事人数)		0.27人	0.48人	0.80人	0.08人	0.00人	0.00人
国県支出金	D	0	0	0	1,248	0	0
その他特定財源	E	30,291	33,721	33,551	37,971	41,707	12,000
市の財政負担(=C-D-E)		74,791	71,613	55,685	58,007	56,984	84,420

※24年度、25年度の事業費、人件費は見込額  
※臨時職員の給与も、人件費に含みます。

## 4. 成果指標・活動指標による分析

成果	中心指標	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	指標の定義
成果	常設展観覧者数	人	48,875	42,333	35,323	36,044	年間観覧者数
成果	特別展観覧者数	人	35,482	26,794	21,553	28,110	年間観覧者数
成果	常設展開催日数	日	297	295	298	300	年間開催日数
成果	特別展開催日数	日	190	197	177	173	年間開催日数
中心指標の考え方		本事業は、成果指標を中心に評価する。					
指標に基づく評価		観覧者数、開催日数とも、大きく変動することなく推移している。					

## 5. 事業の実施を通じた分析・評価

(1) 現在の課題と状況	効率性に課題
今年、開館10周年を迎える美術館では、つねに広く市民に親しまれる展覧会を心がけ、市立美術館として地域性を生かした企画で川越の文化を発信してきたが、まだまだ当館の認知度・知名度が高いとは言えない状況であり、今後多様なPRを積極的に実施し、知名度の向上に努める必要がある。また、これまでの特別展観覧者の動向も踏まえ、特別展・企画展を開催し、観覧者を増やし、収入の確保を図る効果的・効率的な施設運営に努める。	
(2) 比較参考値(他市での類似事業の例など)	
平成12年に開館したうらわ美術館では、年間 企画展(特別展)を4本、コレクションによるテーマ展を3本開催している。また、「本をめぐるアート」作品を収集のひとつの柱として、アーティストによって制作された本や、本をめぐる魅力あふれる国内外の美術作品を収集している。	
(3) 事業を廃止・縮小したときの影響	
廃止することによって、公立美術館としての役割が失われ、その存在意義が問われる。また、縮小することによって、来館者数が大幅に減少することが想定される。	
(4) 所属長自己評価(今後の方向性)	継続
厳しい財政状況のなか、22年度比で入館者数を伸ばすことができた。今後も美術ファンだけでなく、一般の方も気軽に来館できるような展示事業を展開して行く。	